

テントウムシのなぞ

なぞ1

なぜテントウムシを触ったら、黄色い汁が出るの？



テントウムシは、危険を感じると、足の関節から黄色い汁を出します。

その汁は、とてもくさくて苦いので、自分を食べようとする鳥などの生き物から身を守っているのです。

なぞ2

なぜテントウムシの羽は派手な模様なの？

テントウムシなどのように、まずい味をもつ生き物が、敵を警戒させるためにもつ派手な色や模様のことを「警戒色」と言います。一回口に入れたことのある鳥は、二度と食べないように警戒するため、テントウムシは身を守ることができるのです。



ヨツボシテントウダマシのように、まずい味をもっていない虫でも、テントウムシの模様をまねて鳥に食べられないようにしている虫もいます。



ヨツボシテントウダマシ

テントウムシの飼い方

必要なもの

飼育ケースまたはビン

ビンの場合は、口にガーゼを当てて輪ゴムで止め、フタを作ります。



小さめのビン

小さめのビンに水を入れ、アブラムシがついた植物をさします。テントウムシやアブラムシが水の中に落ちないように、隙間があればティッシュをつめます。

えさやり

アブラムシのある植物を探して与えます。アブラムシがつきやすいカラスノエンドウやギンギシの植物がオススメです。



カラスノエンドウ



ギンギシ

アブラムシが少なくなってきたら、新しいアブラムシを探しに行きましょう。一日に一回霧吹きをしてあげます。

生き物 ものしり シート

～テントウムシの巻～



桑袋ビオトープ公園

テントウムシの成長

テントウムシの種類によって、幼虫やサナギなどの色や形はさまざまです。ここでは、その中のナナホシテントウの成長の様子を紹介します。



卵

卵の長さは約1.5mmです。アブラムシのいる草木の葉や、その近くに20～40個ほどまとめて産みつけます。



幼虫

卵は、3～7日ほどで幼虫に「ふ化」します。幼虫の間で数100匹から1000匹ほどのアブラムシを食べます。



さなぎ

3回目の脱皮を終え、十分にエサを食べた幼虫は、「さなぎ」になります。日当たりの良い場所でよく見られます。



成虫

「さなぎ」から1週間ほどで羽化をします。成虫は、幼虫と同じくアブラムシを食べます。

羽化したばかりの成虫は、模様の薄い黄色の体をしています。



テントウムシの一年



暖くなる3月頃から少しずつ成虫の姿が見られ始めます。4～6月が繁殖の時期です。



暑さに耐えるために、草の茂みや葉の裏でじっとして過ごします。（夏眠）



9～11月に再び繁殖します。落ち葉の裏などで卵が見つかることがあります。



成虫の姿で冬眠をします。ススキの根元や落ち葉の下でよく見られます。見つけてもそっとしておきましょう。

テントウムシいろいろ

日本には、約150種類のテントウムシがいます。ここでは、その中でも身近に見られるテントウムシを紹介します。体の模様の特徴で、テントウムシを見分けてみましょう！

ナナホシテントウ



大きさ 5～9mm

食べ物 アブラムシ

日本で最もよく見られるテントウムシです。赤い羽に7つの黒い点が特徴です。草むらでよく見られます。

ナミテントウ



大きさ 5～8mm

食べ物 アブラムシ

色々な種類の模様をもつテントウムシです。模様は、母親と父親の模様の組み合わせで決まります。草むらや林でよく見られます。

キイロテントウ



大きさ 4～5mm

食べ物 ウドンコ菌（カビ）

黄色い体が特徴のテントウムシです。ウドンコ菌がついている植物の近くでよく見られます。